

委員会の動き

総務委員会

付託された議案15件のうち、14件は全会一致で原案可決、議案第46号は分離採決し、賛成多数で原案可決、陳情については、1件は継続審査、1件は不採択と決した。

職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の改正で、職員の勤務時間が1日15分短縮に至った経緯を尋ねたところ、人事院勧告により国家公務員の勤務時間の改正に準拠した。広報紙4月号で市民に周知するとともに、今まで以上に市民サービスを徹底するとの答弁であった。

デジタル防災行政無線施設設備工事請負契約の変更で、変更契約も締結していないのに工事を進めることはおかしいのでは、また設計段階で瑕疵があったのではと尋ねたところ、速やかに中断し議会に相談し、決定を受けてから再開すべきであった。

しかし、この工事は特殊性があり、工期も迫っているため、最終的に変更内容や金額

が確定してからの、まとめて行おうとしたため、報告が遅れ反省しているとの答弁であった。

設計段階で地質調査業務を実施する必要があったが、指示を行ってなかったことで、不信を与えたことに反省している。いろいろ指摘のあった点を十分踏まえ、適正な事業を執行するとの答弁であった。

民生文教委員会

付託された議案16件、陳情2件について、全会一致で原案可決、継続審査と決した。

母子家庭医療費と乳幼児医療費の人数の動向について2月末現在で母子家庭は母327人、子供536人の863人、乳幼児数は2049人が対象となっており、目立った増減はないとの答弁があった。

各保育所へのAED購入について、設置時期と使用方法講習会についての質疑に対し、教育委員会関係も購入予定で、できるだけ安価で購入したいと考えており、教育委員会と十分協議し、遅くとも6月ぐらいには購入したいとの答弁があった。

認知症地域支援体制構築等

推進事業は、19年度・20年度に八幡浜市と伊予市の2市が県から指定を受け実施したが、認知症高齢者も増加するので、平成21年度からは、地域支援事業で取組んでいきたいとの答弁があった。

乳がん検診は40歳以上ということであるが、30歳以上に行ける方法を検討してほしいとの意見があった。

学校建設費で伊予小学校管理教室等の耐震二次診断の遅延理由の質疑に対し、適切に早く措置すべきであったと反省しているとの答弁があった。

下灘小学校も早い段階での対応をするべきであるし、また0・3以上の分も早急に二次診断を実施する予定であるとの答弁があった。

産業建設委員会

付託された議案19件は原案可決と決した。

市道灘町小学校線の今後の道路拡幅についての質疑に対し、今回の市道認定は、ボックス部分を6メートル延長するため、この路線を廃止し再認定するもので、J Rの暗渠は非常に狭いが、今回は現状のままである。今後拡幅する

には、J Rとの協議が必要で、更に多額の費用がかかるため、今後の検討課題であるとの答弁があった。

中山間等直接支払交付金について、来年度が5カ年計画の最終年度であるが、高齢化の影響で、この制度を維持できない地域はないのか、また、今後の見通しについての質疑に対し、今回の対策事業は2期目であるが、前期の対策事業のときから、2期目に移れなかった集落もあった。

その理由としては、やはり高齢化等で参加者が減ったということがあり、この2期目の対策事業についても、人数が少なく活動が難しそうな集落もあるが、直接やめたいという話はあがっていないため、何とか最終年度まで集落活動は維持できると考えている。

今後の見通しについては、国では第3期対策事業についての検討に入っているようで、おそらく3期対策事業は実施されると思われるが、また県等を通じて制度が延長されるよう要望していきたいと考えているとの答弁があった。

編集後記

4月19日の市長・市議のダブル選挙を控え、慌ただしい日々を送っている我々編集委員一同も、その間を縫って、最終3月議会の報告を皆様のお手元に届けるため、度々集まって会議や写真撮影に飛び回っております。この4年間市民の皆様にご覧いただける議会だよりにするべく、表紙のデザインも2回にわたって変更、文字も大きくしました。

また、一般質問の報告も一人一写真真入りにしたり、それまでややもすると、議会事務局のお手伝いを議員がするという形だったものが、今では当然のことながら議員が主体となり、議会事務局の皆さんにお手伝いしていただく形になりました。

改選後の編集委員の皆様には、すべて自らでやり抜く決意で更に前進していただけるよう申し添え、お別れの言葉とします。

文責 水田恒二

議会広報調査特別委員会

- 委員長 岡田博助
- 副委員長 佐川秋夫
- 委員 谷本勝俊
- 委員 正岡千博
- 委員 武智邦典
- 委員 久保榮
- 委員 水田恒二